

なっている腕と胴の接合面はほぼ平面と見ることができ
る。したがってこれを包む袖が身頃と接続する部分の平
面図形も楕円に近い形をとり、この展開図としての袖山
曲線は正弦曲線を基調とする曲線となることは当然であ
って、装身美その他の問題を考慮に入れて変形された正
弦曲線と見られる袖山曲線を、前回同様円弧集団として
表現し、定規盤を応用し簡単に作図出来るようにした。

C—57 数理的に見た袖山曲線について

郡山女大附高 桑名 恒
○河島シツエ

1. 長い年月の経験と鋭い勘に支えられている現在の
洋裁方式を数理的に追及し、初心者も学生も容易に修得
できるようにと念願、特に原型の曲線部分に重点を置い
て研究を進め、これら曲線部分はいくつかの円弧の集団
として表現できることを知った。そしてこの円弧の半径
や中心位置等の諸元を求めておけば、いずれも等しい
Curveを再現することができ、更にこれらの諸元を図上
に表現すれば、初心者や学生も簡単に再現できることを
知り得た。

この結果を文化式原型の衿ぐり、袖ぐり曲線に応用
し、昨年第12回家政学会東北大会、第19回家政学会並に
第13回家政学会東北大会に於て報告した。

今回はその第4報として袖山曲線を数理的に追及し
た。袖と身頃の縫合線について考える場合、この中枢と